

■エッセイ

私と神戸

6

神戸の吟行案内

山口誓子

絵／灘本唯人

△俳人△

神戸の市内で、俳句を作り、句会を開いたところのことを書いてみよう。

東灘区——魚崎にある山邑邸。天保時代に、西宮の宮水を運んで、桜正宗を醸造した山邑家の本宅である。私はこの邸宅で、毎月句会を開いてゐた。

「正宗」と云ふ字は、「桜正宗」が始めて使つたのだ。「清酒」が「正宗」桜正宗の酒蔵も見た。

誓子

兵庫区——三菱造船所。神戸の港を遊覧船で廻遊すると、三菱造船所の前を通つた。起重機が沢山立つてゐて、壯觀だった。

誓子

起重機の手挙げて立つて、海は春

懸崖菊いかな高さに置くならん

誓子

相楽園には、北野から移した異人館、ハツサム邸がある。木造二階建。南に張り出したベランダが美しかつた。

須磨区——須磨離宮。硝子張りの離宮は、宮殿であつた。その前には、噴水が並列して、美を尽くしてゐた。噴水の下に公園があり、ずっと下方に海が見えた。

誓子

須磨離宮

離宮へ行つたとき、離宮道を多井畑まで登つて、松風村雨の墓に詣でた。多井畑の村長の娘、須磨の浦で、在原行平に愛された姉妹の墓である。

昔の西國街道は、須磨の海岸を通れなかつたのである。

水減りて雄の滝壺を衝くことなし

誓子

雄の滝の直下せざるは名に背く

同

生田区——相楽園。毎年菊花展が開かれるので、

夕焼けて西の十萬億土透く

を憶えてをられて、摩耶山の天上寺から夕焼の方を見てみると、まさに十萬億土が見えると云はれた。

摩耶山行に續いて、六甲スカイヴィラで、天狼の支部長会議を開き、句会も催した。私は、ヴィラの前に咲き満ちてゐる六甲山のあぢさゐを詠つた。

紅き洋装あぢさゐを恥かしむ

誓子

私は、月に二回、東京へ行つて、朝日新聞で朝日俳壇の選をして帰つて来る。

そのときは、新幹線を新神戸駅で下りて、水道筋を通り、芦屋へ出て、苦楽園へ帰つて来る。

水道筋を通つてゐて、いつも眼に留ることを書いて置く。

水道筋を走つてゐると、上筒井を通る。バス停留所にも上筒井と書いてあるし、ガソリンスタンドにも上筒井と書いてある。

上筒井は、以前に阪急電鉄の神戸の終点であった。私もよく終点の上筒井駅で下りて、神戸の町へ行つたことがある。上筒井は懐しい所だ。

水道筋の住吉を通つてゐると、右手に繁華な商店街があつて、入口に「有馬道商店街」と書いてある。江戸時代に、東灘区の森から六甲山の最高峯を越えて有馬へ行つた道が有馬道で、その名が今も残つてゐるのだ。

この頃、六甲山へは、苦楽園の私の家から車で、芦有道路を登つて、六甲山の尾根道へ入つて行く。こないだも摩耶山天土寺へその道で行き、お寺で吟行句会を開いた。

住職は、私の句で、高野山の奥の院の句碑になつてゐる



▲著者紹介

明治34年京都に生まれる。大正15年、東京帝大法科卒業。水原秋桜子、阿波野青畝とともに「ホトトギス」に新しい波を起し、昭和初年、高野素十を加え「S」と称された。同10年には、「ホトトギス」を去つて「馬鹿木」に加盟。同23年、「天狼」を創刊主宰し今日に至る。

□ トランペット片手にブラジル一人歩き △ 28



絵と文 右近 雅夫 ▲在ブラジル・サンパウロ▼

スコッチと・ピンガ

もうかれこれ十年も昔の話だが、サンパウロから百二十キロ程離れたイタニヤエンという町のヨット・クラブに、演奏に行つたことがある。ドรามのペドロ・ロドヴィッシがヨットを持つていて、クラブの会員なので「ノイテ・デ・ジャズ」の催しに僕らのバンドが呼ばれたからだ。金曜日の夕方、仕事を早い目に切り上げパンジョー奏者のデツシモの家に集まつた僕らは、夫々乗つて来た車を彼の家の前に置いて、デツシモのガラクシに乗り込み、夕暮れのサントス街道を下つた。海岸山脈を下り切つた所で右に折れ、海岸線に沿つたハイウェイを南下、イタニヤエンの町に入る辺りはもうすっかり暗くなつていた。町のプラサを通りがかると、折から夕食時だったので、ずらりと並んだ魚料理専門のレストランテのテラスには海水浴客が溢れていた。

イタニヤエン・ヨット・クラブは入江の奥まつた所にあり、二階のサロンはもうお客様で一杯だつた。彼らは週末を海水浴やヨット等のレジャーで楽しもうと、サンパウロからやって来た連中で、

ダンスを始めると夜の更けるのも忘れてしまつたようだ。ラスト・チューンの“Do you know what it means to miss New Orleans”をウイリーのトロンボーンがリードして吹き出したのは、もう真夜中の二時を過ぎていた。ショウが終つても楽器を片付けたり、出演料の支払い等に手間取つてやつとクラブを出たが、「疲れたから街道に出るまでに町に寄つてカフェを一杯飲んでいこう……」と誰かが言い出した。あんなに眠わつていた広場もその時刻には人影一つなく、芝居の舞台装置のように外灯が淡い光を辺りの椰子の樹に投げかけているだけだった。店じまいをしようとしているバールを見付けたので僕らは車を停め、生温くなつたカフェズイニョを飲むと再び車に乘つて深夜のサントス街道をサンパウロに向かつた。車が海岸山脈の登り坂に差しかかるとハンドルを握つていたデツシモが、「眠くなつてきたから……。」と運転を他の仲間に頼んだ。その時、グループでも一番のボエミオのレイナルドが、「こんな所で皆が居眠りしてしまつては事故のも



とだ！ひとつ眠気醒ましに秘藏のピアーダ（笑い話）を披露することにしようじゃないか……。」と言つて話し出した。

二人の田舎者が釣りに行こうと誘い合つて出掛けたが、途中で昼食用に鶏を一羽買って行つた。島に着くともうお昼頃だったので二人は「カンジア」（チッ切りの鶏肉の入ったブラジル風の粥）を炊き出したが、煮え上るまでの間に島を一周し、釣り場を探しに行こうと鍋を火にかけたまま散歩に出て行つてしまつた。しばらくしてそこを通りがかった二人の「マランドロ」（ブラジル語でならず者のこと）が浜辺でグツグツ煮えたぎつている鍋を見つけ、「おい、旨そうな匂いがしよるで。一つ御馳走になるしようか？」と一人が言うと「いやいや、それよりわしにもっとおもろい考え方があるんや……」と相棒の悪が言い、ズボンを下すと鍋の上に中腰になり、「ウーン、ウーン」ときりり出した。便秘気味でなかなか思うようにいかなかつたが、やつとのことで、「ポトン！」と親指大の端切れが落つこちたので彼らは鍋に蓋を

すると行つてしまつた。しばらくして先の二人の田舎者が戻つて来たが、「やれやれ腹が減つた！」と言つて「カンジア」を平らげてしまつた。……がその後で一人が相棒に言つた。「おかしいな？ 確か鶏は一羽しか買わなかつたのに、わしの皿には首が二つも入つとつたよ。」

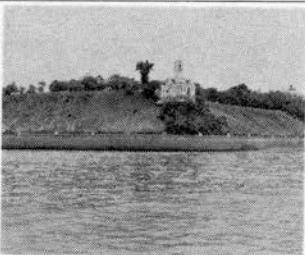
ブラジルのピアーダは落ちる話ばかりで甚だ遺憾だが、レイナルドから聞いたもう一つ傑作な話を紹介しよう。スコットランド人がリオへ来てホテルに泊つた。夜になつて彼はホテルの向いにある「ボテコ」（ブラジル語で居酒屋のこと）へ行き、「スコッチはウイスキーで有名やけど、ブラジルには一体どんな酒があるんや？」と尋ねた。ボテコの主人が、「ブラジリアン・ピンガ・ベリー・ナイス！」と言つて砂糖きびから取つた蒸溜酒の「ピンガ」を勧めるとかのスコッチ氏は大いに気に入つたらしく、何杯も続けさまに飲んだ。すっかり酔つぱらつてしまつた彼はホテルに戻つてシャワーを浴びたが、リオの夏はとても暑いので、素っ裸のままベッドに俯伏せになるとぐっすり寝てしまつた。しばらくして彼の部屋の前を通り合わせた「ホモ」の黒人の大男が、ドアを開けつ放つたスコッチ氏が翌日ボテコに行くと、「旦那、ブラジルのピンガはいかがでした？」とボテコの主人に尋ねられ、「安物のスコッチ・ウイスキーで二日酔いしたら頭へ来よるが、ブラジリアン・ピンガ、けつたいなことにケツの穴がひどう痛みよるわ……。」と尻をさすりながら答えた。

● 兵庫県ハバロフスク地方友好使節団に参加して

アムール河(黒龍江)は、

いまも流れる

小泉 美喜子(本誌編集長・大和三喜子)



★ハバロフスクに行つたら日本兵の怨靈が出るゾ!

「ハバロフスクへ行かんならんねん」

と、大和三喜子先生(大和樂理事長)から、兵庫県ハバロフスク地方友好使節団の文化交流団に、何がなんでも行つてやと誘われたのは1月頃のことだ。

関西大賞のさわやか賞受賞という、降つて湧いて来たような出来事が、神戸まつりのサンバチーム20回連続出場を終えてほつとしている頃に起り、関西の文化人の先生方からの栄誉ある賞だから、それを機会にと兄が社長に、私が編集長という突然変異になつてしまつた。

6月10日の神戸国際会議場での受賞式。7月28日には、新神戸オリエンタルホテルで『さわやか編集長を励ます会』を開くという段取りになり、「ハバロフスク」行は、えらいこつちやの最中で気が重かった。

たゞ、私が、なぜか行きたい想いがあつたのは、戦後45年を経て日本が経済大国として豊かな国になり、なんでもある日常生活から脱けて、ゆっくりした歩みを続けるソ連の、ゴルバチョフのペレストロイカがどんなに地方のハバロフスク州に及ぼしているかも見たかった。『アムール河で、日本兵が5万人から死んだる。そんなところへ行つたら怨靈にとりつかれるぞ。それに、あんなどこ、何にもあらへんで……』と、ハバロフスクに抑留されていた次兄の言葉がひっかかる。いよいよ出発となつ

て、私は慌てて松竹梅の線香と、中国旅行に馴れている岡田美代さん(演出家)からの差し入れの、ラーメン、

お米、コーヒー、紅茶、缶詰類を有難たく抱につけた。

今回の旅は、大和樂の大和三喜子(ワキ唄)として参加したので、紋付きや浴衣など持ちものも多く、徹夜で準備して、7月10日の朝、神戸を出発した。

伊丹から新潟空港へ、ここで総団長の貝原俊民知事閣下(ソ連風な呼び方で)の日ソ友好兵庫県議会議員連盟訪ソ団(末松三好団長)や、経済ミッショ(梅田善司団長)、漁業関係交流団(木下清団長)、文化交流団(花柳芳五郎団長)、他に報道関係者(田口昭南団長)ら、総勢91名が合流し、ハバロフスクへ。

★アムール河を望む緑ゆたかな町

午前11時に新潟国際空港をJALで飛び、15時15分にハバロフスク空港へ着く。2時間の時差があるので、正味2時間の空の旅。「何と近いなあ」と、日本海新時代を実感した。クラシックな天井の高いシャンデリアのある宮殿風な空港のロビーは、新潟市も姉妹都市として花火大会を開くとやらで、日本人客でごつた返していった。それにしても暑い。空港前の広場に出ると、屋台で花やぐみの実を売る風景が懐かしく、車やストリートバスが、掃除をしないのか汚れた車体で走り回る姿と、意外にカラフルなファッショの人々にびっくりした。

兵庫県とハバロフスク地方が友好交流をもつたのは、昭和41年に、ハバロフスクで開かれた「第1回沿岸貿易見本市」に県下企業6社が出展し、当時の坂井副知事が訪ソしたのがきっかけだ。昭和44年に友好提携。隔年に相互訪問し、10周年（54年）に坂井知事が初の行政、文

化、経済、婦人ら133名が交流。昭和60年には、コウノトリ6羽の寄贈を受けている。平成元年、20周年を機に、ダニリューエ城行委員会議長らと共に「極東歌と踊りのアンサンブル」が来県。丹波年輪の里に木製大型遊具「子供娯楽園」を寄贈され、その返礼の友好交流だ。

ハバロフスク地方は、人口179万人。約日本の2.2倍の広さ。アムール河を望む緑豊かな公園の高台にあるコンファレンスホテルは10階建。ハバロフスク市の最高級のホテルだが残念ながら冷房なし。滞在中の一週間は、自然の風と扇風機のみ。

さて、ハバロフスク市のオペラ座が、使節団の文化公演を披露する劇場で、1000人ぐらい入る風格ある建物だ。演出家の大関弘政さんは宝塚歌劇団のスタッフで、日本の伝統芸能『美しき兵庫』を12日夜に披露するための舞台稽古は、ロシア人スタッフとの合せが大変だった。例えば、幕あきの演出だが、日本の歌舞伎舞踊の世界では、場内が暗転の中でチョーンと拍子木を打つと、パッと照明を全開して華やかに幕が上がる。このチョーン・パツが出来ない。本番も太鼓ドーン・ドンとなつてチョーンと鳴らすと、ゆっくりと照明が明るくなつた。

幕開きは大和楽の三味線・琴・唄による演奏と、花柳五三輔師が振付けで日本の四季を、団長の花柳芳五三郎師らが舞う。淡路の高田屋太鼓のドラマティックな北前船辰悦丸の進水の祝う曲を、五色町の青年団のメンバーが見事に打ち鳴らす。民謡の曲で、酒造り唄、紅花造り唄、傘踊り、江差追分け、雪の花の群舞となつて幕を閉じる。一番、われわれが困ったのは、大関先生のなにがなんでもロシヤ語のカチュー・シャを唄え、ロシヤ語で御札の言葉をというお達し。通訳のナターシャさんに教わって大わらわで全員が憶え、一番喜んでもらつたのは、このたどたどしい琴と三味線で唄うカチュー・シャだったし、大和孔子さんのロシヤ語の御札の言葉だった。



（右上）ダニリューエ地方議会議長と貝原知事が友好の握手。（中上）ハバロフスクのオペラ座ハバロフスク地方文化議長（中央女性）から感謝状が。（左上）砂尾氏、大和師、花柳芳五三郎師、大関先生。（左下）ソ連極東軍も舞台裏に活動、高田屋太鼓をついて。（中下）蝶々夫人のブリマドンナにポーズをコーチ。（右下）ハバロフスク空港で兵庫県舞踊協会と大和楽団チーム勢揃い。

（続く）

経済ポケット ジャーナル



ホテルの完成予想図

★
西宮に初の都市型ホテル
誕生(平成四年)
西宮市内初の都市型ホテルとして辰馬本家酒造㈱が阪神甲子園駅前に計画を予定している「甲子園都ホテル」(仮称)の建設が進められている。ホテルは地上十四階地下一階、敷地面積約一万四千平方㍍で、客室棟と宴会・料飲食棟を分離し、この二棟の間をアトリウムで結んだ形態となる。

客室棟は四階以上がツイントーム主体に二百六の客室、三階以下には結婚式場、衣裳室、写真室などが

備えられる。

宴会・料飲食棟には、一階に和洋中のレストランをはじめ、ドッグストア、ティーラウンジ、フラワー・ショップなどを置き、最大千人収容の大宴会場を含め、大小合わせて五つの宴会場を一、二階にそれぞれ設ける予定。

また、三階にはトレーニングジムや二十五㍍×五コースの温水プール、サウナなどを備えた会員制高級フットネスクラブも計画されている。

同社では「西宮市の新しい顔づくり」「都市における豊かな生活の実現」をテーマにホテル建設を進めており、地域の活性化に貢献する都市コミュニティーリ創造のシンボルとして同ホテルを位置づけしている。

なお、ホテルの運営にあたっては「都ホテル」の指

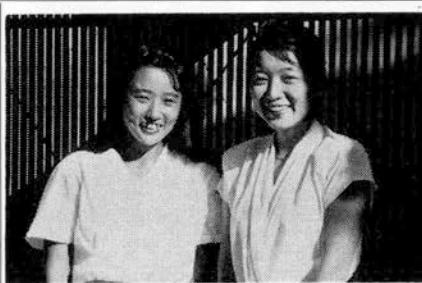
トショー、西日本秋'90我が国最大のパーソナルギフトと生活雑貨の国際見本市、第4回インターナショナルアートアイランドの神戸国際展示場で開催される。今回のマーケット提案は「パーティー＆バーティー」「オリックス神戸移転へ！」

オリックス球団はこのほど西宮球場(西宮市)からグリーンスタジアム神戸(神戸市)へのフランチャイズ移転を正式に決め、先月十三日、神戸市内で宮内義彦オーナーが発表した。

一昨年に阪急から球団買収したオリックスは、昨シーズン、今シーズンと西宮球場をフランチャイズとして使用しているが、観客動員数の伸び悩み、球団イメージの一新などの理由から本拠地の移転を検討していた。一方、神戸市サイドでも、誘致を呼びかける市民の会らが約六万二千人分の署名を集めなど本拠地移転に積極的な働きかけをしていた。



来たよ! オリックス
(写真は記者発表の様子)



★
K O B E
オフィスレディ★

藤原扶美代さん
河井由貴さん
(22)(24)
△神戸女子短大

短大の受付に座っている仲良しコンビ。教員、学生、外部等の応対に気の安まる暇もないが、明るい笑顔で周りからの評判もGood。着付けや編み物が趣味という古風でしっかり者の藤原さん(灘区在住、獅子座のO型)水泳が大好きという元気いっぱいの河井さん(須磨区在住、双子座のB型)。対照的な二人だがお互いに同校のOGで「家族的な雰囲気の中で、緊張の中にも楽しく毎日働いています」と声を揃える。

港でお世話になつてきました。昭和25年に、現在就航中の「神戸港めぐり」の前身とも言える神戸港内見学船を運航まして、今年で丁度40年を迎えました。これを機に何か新しい事業を展開したいと社内で検討していたところ、「クルージングと今ブームのグルメをドッキングしてみたら」という案が挙がり、今回のバルデメークルへと話が進んだわけです。

★ハルテンメル川の実現

8月10日に就航したグルメ＆クルーズ船“パルデメール”。神戸の景観とグルメの楽しみを同時に味わえる船として人気も上々。今回の一回の経済サロンには、同船を運航する神戸観光汽船の松本日出喜社長にご登場願った。



★経済サロン (2)

神戸港と共に歩み 観光の活性化へ

松本 日出喜 さん

神戸觀光汽船株式会社取締役社長

た。それから39年にポートタワーが出来て、不況もあり、ポートビーアもあり、まさに港神戸と共に歩んできたわけです。

趣味といえば、ゴルフ位ですかね。普段、海で働いていますので、緑に囲まれたゴルフ場というのもいい気分転換の場になります。仕事で行き詰った時など、いいヒントが浮かぶこともあるんです(笑)。今はバルデメールで頭が一杯なんですが、一段落したら大きな船で世界を回りたいと思っているんです。結局、海との相性がいいんでしょうね。

★神戸の港の歴史を刻んで

私自身は大阪の生まれですが、小さい頃から海が大好きでした。それで神戸の海にはずっと憧れていて、昭和34年に入社しました。コンテナがまだなかった時代で

特別座談会

シルクロード1万7千kmを行く

神戸商科大学創立60周年記念



座談会出席者 <敬称略>

中内 功
株式会社ダイエー代表取締役
会長兼社長

能勢 哲也
神戸商科大学学長

寺本 涼
株式会社淡路屋取締役社長

有光 信也
兵庫トヨタ自動車株式会社
常務取締役

飯田 洋暢
経済学科4年 山岳部主将

前川 佳子
国際商学科2年





有光 信也 さん



寺本 淳 さん (実行委員会実行委員長)



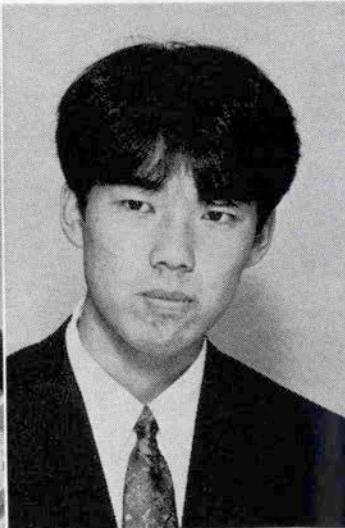
能勢 哲也 さん (実行委員会名誉委員長)



中内 功 さん (実行委員会名誉隊長)



前川 佳子 さん



飯田 洋輔 さん (実行委員会副委員長)

神戸商科大学の創立60周年を記念して、同大学の山岳部とO.Bを中心とした総勢31名が、車でシルクロードを走破した。3月13日に神戸港を出航し、天津からイスラマバードまでの約1万7千kmのラリーであった。同大学隊にとって、昭和51年の遠征でのイスタンブールからボンベイまでの約2万7千kmの走破に続く成功であり、これによりシルクロードの全行程を駆け抜けたことになる。

そこで今回の座談会では、「シルクロード1万7千kmを行く」と題して、同遠征に参加された皆さん方にお集

まりいただき様々な体験談や感想をお伺いした。

★同窓のパワーから生まれた計画

——まず今回のシルクロード遠征についての意味合いをお聞かせ下さい。

能勢 私共の大学が今年、創立60周年を迎えるということで、また中内さんが同窓会長に就任されたこともあります

何かユニークな記念事業をと考へていたところ、山岳部OBや現役の方から「前回は西半分を走破したシルクロードの残り半分を行こう」という案が挙がりました、遠征したわけです。私は北京しか行けませんでしたが、中国は初めてだったので本当に良かったと思います。中内さんにもお忙しいところ参加していただい……。

中内 私は寺本さんにかつき出されてしまつて（笑）。でも15日間、仕事を忘れて学生諸君と寝食を共にして、本当にいい経験をさせてもらいましたよ。

寺本 中内さんに参加していただいたお陰で、貝原県知事にも総隊長として北京まで来てもらいました。何とか予定通り全コース踏破できたのもご協力いただいた皆様の気持ちが中国まで届いたということだと思います。自動車は有光さんの会社からの提供ですので、その辺りは有光さんからどうぞ（笑）。

有光 本当は我が社の滝川社長が参加する予定だったんです。それがどうしてもはずせない用が入ったため、私がピンチヒッターで参加したというわけです。私は山岳部ではありませんが同窓でもあり、寺本さんとは同級生ということでメンバーに入れてもらつたんですよ。車に関しては、とにかくエンストさえしなければと（笑）そればかり念じておりました。砂漠の真ん中で動かなくなつたら、いかに頑丈なトヨタの車とはいえども、ありませんから（笑）。どうにか最後まで走ってくれてホッとしました。

飯田 まずこのような大計画に参加でき、あこがれのシルクロードに行けたことを本当に嬉しく思います。私は「大地」という言葉が好きなんですが、中国は本当に広い国だと身を持って体験できました。

前川 私は一般の商大生からの参加でしたが、世界の大きさを実感しました。日頃の小さな出来事が滑稽になるほど視野が広がったと思いますし、今後の人生にも活かしたいですね。

面白いエピソードもあったでしようね。

寺本 中内さんが何十年間もあこがれておられた嘉峪関の夕陽を見非見ていただきたいと、実は隊員全員で好天になるようにお祈りしていたんですよ、中内さんはご存知なかつたでしようが（笑）。

中内 それはありがとう。でもきれいだったね。午後9時13分でしたよ。今でも目に焼き付いていますよ。

能勢 その話を後で聞いて、中内さんは本当にロマンチストだなと思いましたね。

有光 そんな写真が全部で2万枚以上あるんじやないかな。8月27日から9月2日までO.P.Aで写真展をしますが、是非多くの人に見てもらいたいと思います。

寺本 車も展示しますので（笑）。

有光 こんなボロ車が本当に動いたのかと思われるでしょうか……。

一同 （笑）。

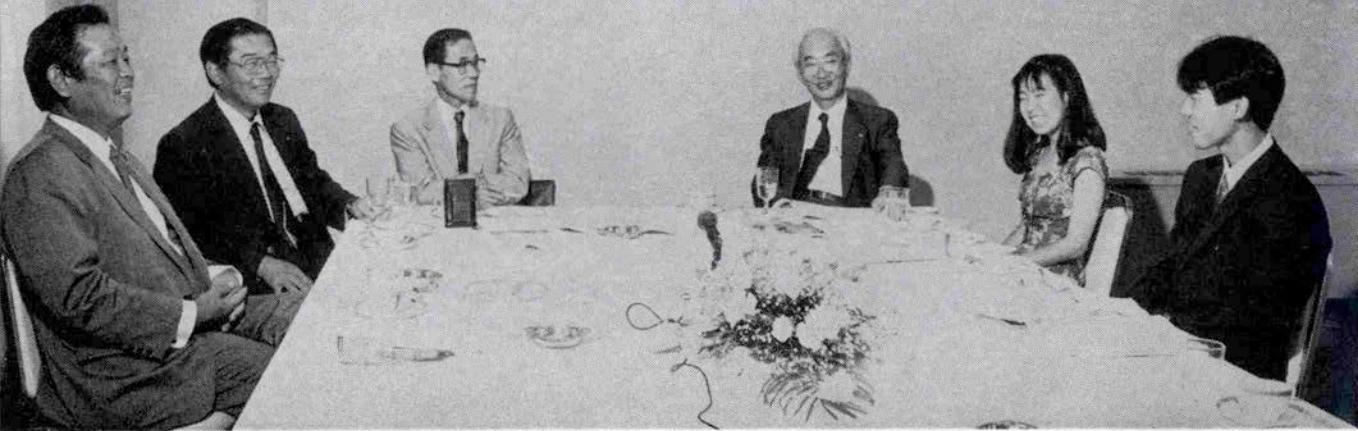
飯田 先輩方から食べきれないほど沢山の差し入れをいたしましたが、パキスタンでレストハウスを経営しておられる日本人の方に贈呈してきました。異国で頑張つておられる日本人に会うと励されますね。

前川 紅一点ということで皆さんから可愛がつてもらいました（笑）。昔の商大ならいざ知らず、今は全体の1/4が女子ですので学校では全然構つてもらえませんから（笑）。

能勢 嬉しかったのは、私が大学院で教えた青年と中国で会えたことです。中央集権の難しさとかいろいろと聞かされました。中国の内情に触れられて良かったと思います。それと大学として、今回の遠征に対する同窓の团结と言うか、母校愛と言うか、そういう熱意に感銘を受けました。

有光 同じ学舎に学んだ先輩後輩の絆は強いですからね。それが山岳部のようなザイル一本で生命を賭けるような仲間意識は、それは強いでしょうね。

★60周年を飾るにふさわしいイベント
—学生お2人の感想をもう少しお願いします。



思い出話に花が咲く。左から有光、寺本、能勢、中内、前川、飯田の各氏

飯田 実は私が車の免許を取ったのは、遠征の2カ月前だったんですね。ですから、ほとんど運転経験もないうちで中国で運転していたわけです（笑）。

中内 よく無事に帰つてこられたもんだな（笑）。

飯田 はい、何とかなりました（笑）。前半は運転手が学生だけでしたので、交代で運転したんですが、とても疲れました。困ったことは特にこれといってありませんでしたね。

寺本 落石事故がありましたね。

飯田 6月5日にケンジュラブ峠を越えてからしばらくして、大きな石がボンネットに落ちてきました。これはビックリしました。今回の遠征には自動車部員が参加してくれていまして、何とか応急処置を施して旅を続けることができました。

有光 トヨタの車でも上から落ちてくる石にはかないませんでした（笑）。

飯田 町としてはトルファンが一番印象に残っていますね。緑が多くていい町だと思いました。

前川 私もトルファンが良かったですね、小じんまりとした陽気な感じで。北京は何か重苦しくて。でも中国ファンになりましたよ（笑）。

飯田 私もです。

— それではOBの方からもどうぞ。

有光 初心は自分なりに体力には自信もあったんですが何とか帰つてこれました、というのが実感です。一番嬉しいことは隊員全員がこれといった大きな怪我、病気もなく帰国できたということ。これに尽きるんじやないかと思います。衛生事情もよくないですしね。いい想い出作りと仲間との友情ができる本当に喜んでいます。

寺本 多くの方々の援助で無事に全員帰つてこられました。本当に感謝の気持ちで一杯です。今後は実行委員長として10月を目標に報告書を完成させるべく努力して参ります（笑）。これが出来上つて、初めて商大隊のシルクロード遠征は終了するわけですから、もう少しお待ち

下さい。

中内 私は嘉峪関の夕陽を生涯忘ることが出来ません。長年の夢が叶って、本当に楽しい旅でした。特にうるさいOBの相手をしてくれた現役学生諸君には感謝します（笑）。

—全く御苦労様でした（笑）。それでは最後に何か言い残されたこと等ありましたら。

能勢 創立60周年を飾るにふさわしいイベントが無事成功し、実際ホッとしています。今後はOBの団結力、学生の実行力を励みに大学も一層頑張っていかねばと、改めて決意を固めている次第です。9月29日に移転開学式をするんですが、その前祝いをしてもらつたという感じです。

飯田 4ヶ月間に亘って中国とパキスタンでOB、現役との交わりも深まりましたし、青春のいい思い出になりました。

前川 私は3週間だけしか参加しなかつたんですが、こんなに凄い旅行はもう二度と出来ないんじゃないのかとさえ思えるほど、強烈な印象が今でも残っています。貴重な体験をさせてもらえて感謝の気持ちで一杯です。

中内 若いうちにこんな体験をするということは、あなたの方の将来に大きな影響を与えると思いますよ。是非大切に胸にしまつておいて下さい。

有光 全くです。中国の青い空を思い出して、仲間を大切にしてほしいですね。

寺本 いくつになつても仲間はいいなあと思いますね。今回の遠征で現役諸君は、改めて教えられたこと思います。

能勢 商大もこれから70年、80年、さらに100年と歩んでいくわけですが、その節目には是非とも何かイベントを繰り広げていきたいですね。その行動力に関しては今回のみ遠征で十分感じることができましたので。

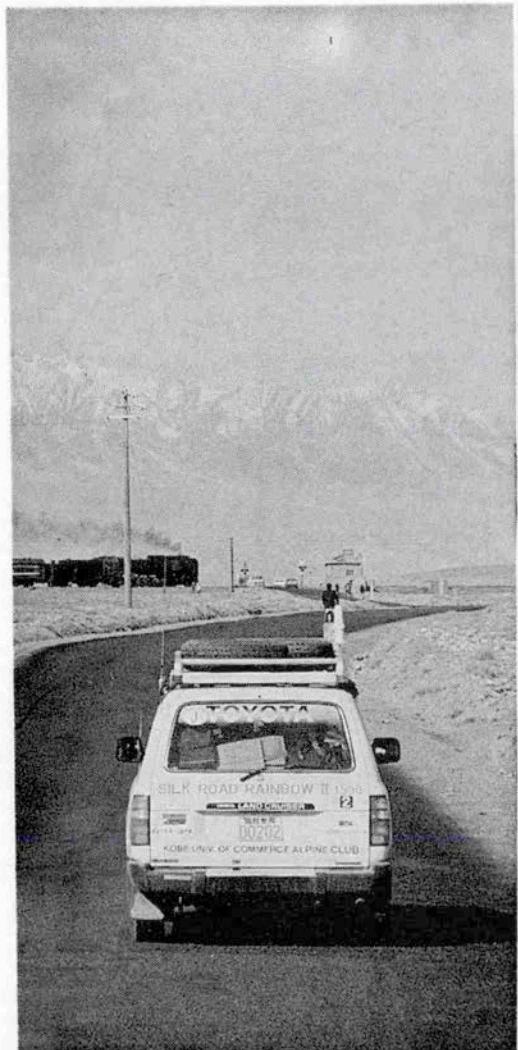
—本日はお忙しいところ、ありがとうございました。（オリエンタルホテルにて）



黄崖関の長城



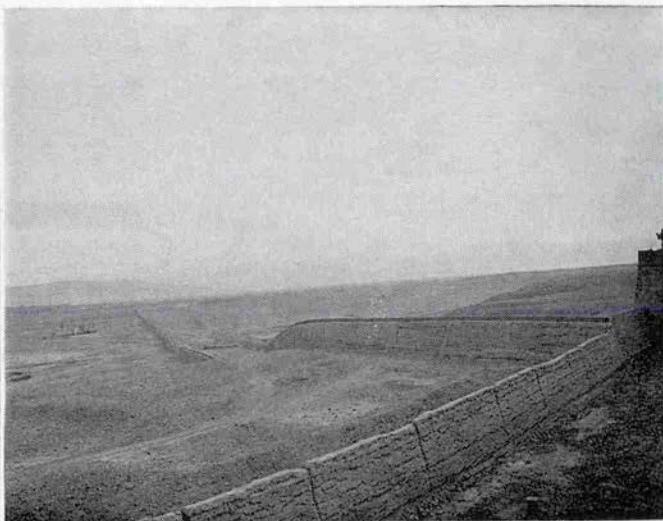
羊羹片手に陽間にて



シルクロードを西に向って走り続ける



トルファンの夜明け



嘉峪関より万里の長城を望む

新しいキャンパスで迎える 新たなる世紀



神戸商大の新キャンパス

今年、神戸商科大学は創立六十周年を迎えた。

同大学は著名な経済人を多数輩出しておおり、今後も二十一世紀に向けた人材教育や国際交流などの面で大きくクローズアップされ、一層の発展が期待されている。ここでは、その神戸商大の六十年の歩みに触れてみたい。

同大学がスタートしたのは昭和四年。地域社会の発展と貿易立国の時代の要求に応えるため、兵庫県立神戸高等商業学校として創設された。公立の高等商業学校として貿易・経済学に通じ、学力と技能を兼備した自律的精神に溢れる人材の育成を目標とした建学の精神が特記される。

昭和十九年には時局の要請を受け、校名を神戸経済専門学校に改めるとともに、経営学をやや重視するようになった。

戦後の学制改革では、昭和二十三年に全国で最初の公立新制大学として神戸商科大学に生まれ変わった。この時に商経学部を設置し、経済・経営の各学科の分離と協調

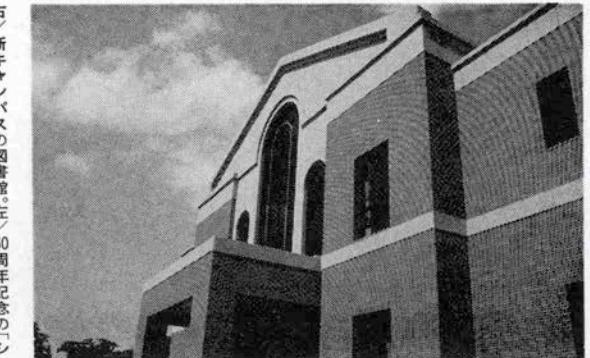
や、専門・教養の交差型教育などの斬新な試みを導入している。

その後、二十五年に附置経済研究所を設置し、学部との密接な連

繋を軸として着実に大学としての基盤を固めていき、翌二十六年に

は併置の兵庫県立神戸経済専門学

校を廃止した。



右／新キャンパスの図書館。左／60周年記念の「シルクロード・ランド・クルザーの旅」の打ち上げ会。内田功ダイエー会長（写真中央）と寺本潤淡路屋社長。左下／8月27日から9月2日まで新神戸のオーパで開かれた神戸商大隊のシルクロード展。



さらに、三十四年には、公立大学唯一の経済・経営学専攻科を設置し、科学・技術発展の要請に応えたのである。また、この専攻科は三十八年に増設された管理科学科の礎石となり、近年日本の産業を支えてきた経営工学の特色をもつ同学科の存在は大きい。

神戸商大における大学院設置は四十年の経営学研究科修士課程にはじまり、大学院の整備が着実に

進められ、四十二年の経済学研究科修士課程、四十六年の経済学研究科・経営学研究科博士課程と、大学院大学としての形が整えられた。この間に専攻科は廃止されている（四十一年）。

また、近年の国際化時代と情報化社会に積極的に対応するため、五十五年にはユニークな国際商学科を増設するとともに附属情報処理教育センターを設けて、幅広い素養をもつ人材養成に努めている。この間にも、五十四年に始まつたエバーグリーン大学との学術交流を機に、同大学との学生交流協定締結（六十二年）、留学生を送るなど（六十三年）、海外諸大学との交流提携も進展し、新しい時代への飛躍が進みつつある。

そして今年、平成二年。神戸商大は、六十年にわたって学生たちに親しまれてきた学舎を垂水の高丸丘から神戸研究学園都市へと移転した。

付近は神戸市立外国语大学や神戸芸術工科大学、流通科学大学などが建ち並び、これから社会を支えるべく人材を養成する地域ともいえよう。その新しい環境の中で神戸商大はいかにすぐれた教育を行い、わが国の、さらには世界の企業で活躍できる人材を輩出するか、各方面から大きな期待が寄せられている。

新開地を神戸の文化と芸術を育てるアートビレッジに

□座談会出席者（敬称略・順不同）

鈴木 三郎

（神戸市住宅局住宅部
住環境整備課長）

高田 昇

（立命館大学教授
COM計画研究所代表）

川村 博美

（新開地商店街連合会会長）

高国樹

（新開地商店街協同組合副理事長）

岡田 美代

（演出家）

神戸の“ふるさと”ともいえる新開地が、今、地元のまちづくり協議会をはじめ、多くの人々の努力で変わりつつあります。既に、本通りのモール化、コーポラティブハウス・神戸1が完成し、さらに新開地アートビレッジ構想など、周辺のまちづくりの再開発計画が着々と進行しています。そこで、今回のキャンペーン座談会は

「新開地のまちづくり」をテーマに、この界隈に深く関わりをもっておられる方々にお集まりいただき、このまちに対する期待や自由なご意見を伺った。

★戦後、歓楽街から商店街へと移行した新開地

——まず、鈴木さんからこれまでの新開地のまちづくりの状況についてお話ししていただけるでしょうか。

鈴木 まちづくりを考えるとき、きっかけになるものがいくつもあると思うのですが、新開地の場合、そのシンボルである聚楽館が取りこわされたことが第一です。それから、新開地のすぐ近くでハーバーランド事業という大規模な再開発が現在行われています。それらに対する新開地商店街のあせりがベースになつて、このままでは本当に駄目になつてしまつという商店街のみなさんの共通の認識を土台に、まちづくり協議会が組織され、その中で新開地まちづくり構想が浮上したんです。具体的な事業としては、まず道路整備から手掛けようと、比較的イメージの暗いアーケードを取り払つてモール化し、その沿道でいくつかの再開発を行つていくことになりました。その中の一つが、昨年9月に完成したコーポラティブハウス神戸・1です。ですから、今回のモールの完成はまちづくりのスタートですので、今後、次々と構想に基づいて新しいダウンタウンづくりが進行します。

——有難うございました。川村さんは、新開地で何年に



川村 博美 さん



岡田 美代 さん



鈴木 三郎 さん



高田 昇 さん



高 国樹 さん

なるのですか。

川村 60年になりますね。新開地は昭和30年頃を境に、売春禁止法で福原が打撃を受け、市役所も三宮へ移転、映画産業も衰退するなどして、振り返るとあつという間はどうしようもないまちになっていました。そこで、もう20年も前に新しい商店街連合会をつくって立ちあがつたんですけれども、何せ、その意識の矛先を何処へ向ければいいのかわからずに年が過ぎてしまつて。そういううちに行政側からもご心配いただき、高田先生にもおこしいただいて今回の本通りモール化が完成したんですよ。ただ、モール化に統いて再開発も次の段階へ移りますから、我々もさらに努力しないといけません。単に、モール化されただけでは何の意味もありませんし、次の世代の方々にも頑張つていただかないとね。

高 川村会長が説明したように、今までにも我々は努力しようという気持ちはありました、何をすればいいのかが分かりませんでした。そこへ、高田先生に来ていただいてモール化へとこぎつけたわけですが、そのためには会員の方々に理解していただけるまでのプロセスは、なかなか大変でした。例えば、アーケードを取り扱うのはいいけれど、雨が降つたらどうするんだという意見もありましたしね。でも、今ではお客様の意見を聞いたりしていつも、明るくなつたし良くなつたと言われます。それに、会員の方も人通りが増えたと言つてますよ。

——なるほど。高田先生からもこれまでのいきさつを含めてお話ししていただけないでしょうか。

高田 新開地と同じような問題を抱えているところは、全国に随分あると思うんです。東京の浅草はじめ、名古屋の大須、大阪の新世界など、いずれもかつての歓楽街の精彩を失つてきてるのですが、その中でいちばん落差が激しいところが新開地だと思うんです。6年前から新開地に携つてるので、当初は何とかできるのかなあと、自分の中ではかなり半信半疑でしたね。ただ、中途半端に街に手を加えていくのでは何の意味もな

いと思うんです。例えば、アーケードが古くなつてきたからといって色を塗つても、ほんのわずかな延命策になるだけね。ですから、私自身、嫌われるのは覚悟で今まで言いたいことを言わせていただき、まちへの提案もさせていただきました。

新開地は、まちとしてのレベルは低くなつていますが、人のレベルは非常に高いんです。と言いますのも、例えモールをつくる際も、折角、モール化するからには日本全国の中でも一等の道にしようというお考えがみなさんありました。また、ご商売人としてもレベルの高い方々ばかりですから、こんなみなさんの力とノウハウがあれば新開地の再開発もやつていいけるなと感じたんです。

岡田 私も湊川町に生まれましたし、50年ぐらい住んでいます。ですから、昔の新開地もよく知つているんですね。当時は、ファミリーで食べに行けるレストランがあつたり、映画館もあつたりしてとても賑やかでしたよね。商店街というよりも、遊びに行ける歓楽街として。それが戦後になってから商店街へと変わりました。ところが、私たち女なら買ひ物で商店街へ出かけるはずなのに、それでもかかわらず新開地に足を踏み入れられなくなつたことがとても悔しいですね。

★住民の力でつくりかえていく新開地まちづくり

川村 戦前は、映画館や劇場、飲食店なども総てメインストリートに面していました。ところが戦後、物販店が進出していくようになつて、今までの歓楽街の中の構成が変わつたんです。それに、「商店街」という名称でないと街ではないという潮流が当時あつたんですよ。そこへ悪条件となる映画産業の衰退、歓楽産業の衰退で街の中に空き地が増えた。残つたのは物販店ばかりになつて、当然、商店街構成が成り立たなくなつたわけです。その後、神戸経済の中心地が東へ移つたことで加速的に街が陥落していく、努力してつくつたアーケードのメンテナンスも思うようにいかない組合状況になつてしま

う。何とかして近代化しようという気持ちはみなさんがおいでになる前に湊川公園を改修しましたでしょ。暗く、汚い公園を、南北にスカーツと見通せる公園にするために行政にも賛同いただき、また湊川商店街の方々とも協力して三期計画で全て改修しました。

岡田 私も、公園を見ていましていろいろと工夫しているなと思いましたよ。一つの銅像にしても公園の北や南に移してみたりね。組合の人や協議会の人たちが試行錯誤しているんだろうなと思いました。この界隈にも、昔はシンボルがありましたよね。北側にタワー、南側に川重のガントリークレーンがあつて、それを貫く通りだから活気に溢れ、街にエネルギーがありましたよね。やはり、ものの無い時代のそれへの執着によって商店街が発達したのだと思いますけど、いまはものがたくさん溢れている時代だから、次は遊びの文化にみんなが目を向けるんじやないかと思うの。だから、商店街としての発達より、昔のイメージを払拭した新しい歓楽街になつた方がいいんじゃないかと思つたりするんです。

高 おっしゃる通りですね。これからは、商店も含めてまちづくりを考える時、安らぎ、ゆとりを感じさせる空間づくりが必要な時代になつてていると思います。

三宮の場合、これからどんなに手を加えても大きな変化は望めません。できるとしてもマイナーチェンジぐらいいではないですか。逆に、新開地の場合はこれからどんな風にでもかえていいかと思うんです。だから、「新開地を捨てて三宮に出てこいよ」とよく言われるのですが、私は新開地を愛しているし、新開地には夢がたくさんつまつまつていています。高級化志向の中にあって、共感を呼ぶ素朴さを残したまちがきっと求められる時代が来ますよ。

川村 折角、こうして退廃してしまったのですから、いままならまちをどうにでも料理できます。ある面で人間臭さの溢れているまちを呼び戻してはどうかなと思いますね。三宮や、ハーバーランドのような近代化されたまちではなく、それとは違った、ある意味でウラをかくようなまちを新開地で考えたいですね。

鈴木 3年前から新開地のまちづくりに携わるまで、20年近く神戸市内の各地区のまちづくりに関わって、それのまちのキャラクターを見てまいりましたが、中でも、新開地のキャラクターはとにかく強烈でしたね。

地元商店街の総会等にも出席させていただいたのですが、総会というよりも喜劇の芝居を見ているようで、登場人物が多彩ですし、なにしろ総会に出席するのが楽しみでしたね。筋書きのないドラマを見ているようで。

岡田 私も思うんです。この界限の人たちはもの凄くエネルギーがあつて、歯に衣を着せることなく、さくばらんですね。土地の気質としていいムードがあるんですよ。

だから、まち全体もよくなるはずだと思うんですけどね。

鈴木 先程、高田先生もおっしゃったように、まちは別として住んでいる人たちは最高だと思うんですよ。

一同 (笑)

鈴木 最近、ハードよりもソフトが重視される中にあって、ソフトの最たるもののが人間ですよね。そういう意味で、新開地のソフトは最高のものを持っています。

川村 いろいろな人間がいますからね (笑)。

高田 そうですね。新開地は、街としてのレベルは低くなっていますが、人のレベルは非常に高いですね。神戸もそうですが、日本の大都市は殆ど行政や企業といつた大きな組織がつくり変えてきたわけです。その結果、どこへ行っても同じような顔つきのおもしろくない街になり、しかも、街の中はとてた商品の売買が行われる消費のるっぽになってしまった。世界的にみても日本ぐらいじゃないですか、こういう妙な街にしてしまったのは。そんな傾向に対抗した新開地流というのは、

悪く言えば無手勝流だけれども、良く言えば住民の智恵と力でつくりかえていく方法だと思います。6年間で目に見えるのはモールやコーポラティブハウスという道や建物だけですが、それをつくりつつ、まちづくりのしくみが出来上っているのです。

——その中で新しい構想が次に控えているわけですね。

高田 私は、いつか新開地のまちづくりから降ろしてもらわないといけないのですが、これは終わらないんです。一同 (笑)

高田 例えば、三宮の再開発の場合、ビルが出来上がりばテープカットをして一件落着となるのですが……。一つ完成すれば終わりということではなくて、一つ産みだせば、そこで培ったパワーを次のプロジェクトに活かしていく。その中から、アートビレッジ構想にしても生きてくると思うんです。ですから、新開地のまちづくりは終わりなきプロジェクトというわけです。

★新開地をアートビレッジに

岡田 アートビレッジ構想は、どんなものなのですか。

高田 昨年、笹山市長が選舉公約として発表されたもので、市長のご提案ですが実際に担うのは地元の人たちや神戸の文化関係者なんです。現在、今年中に構想をつくるために地元の若手のみなさんと、映画、音楽、美術、演劇等、各分野の方々のご意見を伺う集まりをもつて神戸の中で新開地がどういう文化を担つていけばいいかを考えています。例えば、一言で音楽と言つてもコンサートホールやライブハウスがあるし、演劇にしてもミニユージカルもあれば小劇場で行う芝居もある。という風に幅が広いし、また新開地のまちと一番うまくマッチする器がどんなものかをみなさんにお聞きしているんですね。

ただ、問題はソフト面ですね。新開地だけでなく神戸そのものの文化的基盤が、もともと弱いと思うんです。ジャズが盛んだとは言つてもその底辺はまだまだ浅いものですね。新開地に文化の器をつくること同時に、

例えば、劇団に事務所や稽古場を提供するとか、できれば芸術活動をしている人たちに住んでもらつてスペースを割安で提供するとか。今のところ、文化を育てるしくみの問題にぶちあたつてゐるんです。ですから、神戸の文化人の方々が新開地の文化運動に参加していただくとうまくいくのではないかと思うのです。

岡田 やはり、おっしゃるよう、神戸はロングラン興行ができない街んですよ。住む人々も個性的だし、まちも個性的んですね。映画や演劇も、連れ立つて見に行くことは少ない。人それぞれが個性的に生きているんです。大阪などは、隣近所の人たちと連れ立つて芝居を見に行って、お弁当も同じものを頼んだりする。極端な言い方ですけど、こんな違ひがあると思うんです。

高田 神戸の枠の中で文化を捉えていると、どうしても希望が湧いてこないですね。ですから、私はもつと京阪神を視野にいれるべきだと思うんです。いまの若い人たち、見たいものがあればどこへでも行きますし。現に、大阪でも10年前や5年前とは全く状況が変わっています。と言うのは、大阪の劇団新幹線や南河内万歳一座などの若手の劇団が全国的に飯を食えるようになつたのはここ2~3年のことで、それは彼らを支えるスポーツサーシップがあるからなんですね。新開地にも、創作活動を育てるしくみさえあれば関西一円から人々がどんどん集まつてくるんじやないでしょうか。

高田 いま名乗りを挙げているのが新開地だけですからね。まちぐるみで文化・芸術のまちにしていくんだということでアートビレッジ構想があるのですから。

岡田 いいネーミングですね。

高田 いっそ、新開地という地名を外してもいいと思うんです。日本のアートビレッジという風に。

★来年には新開地でイベントの開催を

高 80団体だったかな。学生さん達に壁画を書いてもらつたことがあつたんです。暑い盛りに来てもらつたので近所の人たちと冷たいものを差し入れると、「来たこ

となかったけど、ええとこやなあ」と言つて喜んでくれるんです。

川村 最初は、怖い怖いと思って来ているからねえ。

高田 それが下町で、新開地の良さなんですよ。三宮だと知らないふりですから。

川村 学生さんの壁画にしてもそうですが、アートや音楽に住民も一緒にのめりこめるぐらいに、我々が啓蒙していくならなと思います。

高田 そうですね。先日、アートビレッジの関係で大阪でライブハウスをなさつてゐる方に新開地へ来てもらつたのですが、喫茶店に入った時にその方がお客さんの顔をじつと見て言つたんです「ここでライブをやつても客が入れへん」と。ですから、公共団体の支援と同時に地元のみなさんが芸術を支えていくための風土をつくつていく必要がありますね。

鈴木 かつて繁栄していた新開地は、もともと川を埋めた荒れ果てた土地に一軒の芝居小屋が建つたことではじまつたわけですよね。そんな角度から文化を見てみると、現在の新開地にも最低限のハードがあるんじやないだろうかと私は思うんです。行政としてのハード整備も進めていきますが、まずは現在の条件の下でベストを尽くし、また、それを行政がバックアップしていくという展開が、少なくともこのアートビレッジ構想の実現に関しては必要なことだと思います。

高田 やはり、演劇にしても音楽にしても多額が必要ですね。それを全て入場料で補おうとしても出来ませんので、世界的に見ても公共団体が支援して育てていくものだと思うんです。しかし、いくらやつても育たなければ意味がありません。そのため、行政がそれを支援する姿勢を明確に示していただきことと、鈴木さんもおっしゃつたように、まず行動に移すことだと思います。アートビレッジ構想という絵を描くだけじゃなくて、具体的に、来年からでも文化的なイベントを新開地で開催したいですね。

(ブランドウプランにて)

田崎真珠織

取締役社長 田崎俊作
神戸市中央区港島中町 6-3-2
TEL (078) 302-3321

オールスタイル株式会社

取締役会長 川上勉
神戸市中央区港島中町 6-5-1
TEL (078) 303-3311

